

農に生きる

Challenge to My Dreams



トルコギキョウ生産者

わたなべ ゆうあ
渡邊 勇暁さん(31)

富士市伝法在住。渡邊華園としてトルコギキョウを約54.5アールで年間100品種以上を栽培する他、米を約90アール栽培。JAふじ伊豆伝法支店花卉部に所属し、青壮年部富士地区本部伝法支部長を務める。

花とともに歩む 挑戦と支え合い

就農を目指した 原点と学び

富士市でトルコギキョウを栽培する渡邊さんは23歳で就農し、今年で9年目を迎えます。代々続く農業を幼い頃から継ぎたいと考え、金魚草やカーネーションの下葉取りを手伝いながら花に親しんできました。

就農を見据え、大学は園芸学部に進学し、花卉研究グループに所属。植物の基礎知識だけでなく、収益につながる栽培方法や環境制御技術、効率的な生産方法など実践的な内容を学びました。さらに、生産者交流会やセミナーにも積極的に参加し、人脈作りにも注力。「そこで得た知識と経験、人脈は現在の経営に生きている」と話します。

品質を追求する栽培への挑戦

就農後は父・憲治さんから栽培の基礎を学びながら、独自の工夫を重ねています。憲治さんは10カ月の出荷期間で安定した量と品質を重視するのに対し、渡邊さんは出荷期間を4カ月に絞り、高品質で高単価販売を目指す栽培方法を選択。植える本数を減らし、早い段階で蕾を仕立てることで花卉枚数を増やし、大きく美しい花を育てます。

品種特性を見極めて毎年品種の入れ替えも実施。加えて、湿度管理による草

丈の調整や土壌消毒など病害虫対策も徹底しています。渡邊さんは「思い通りにいかない時もあるが、それを面白さと捉え、新しい技術にも積極的に挑戦したい」と意気込みます。

支え合いの中で描く 今後の目標

「時間と手間をかけて育てた花が咲いた時や市場から求められた時に喜びを感じる」と話す渡邊さん。家族で農業に励むことも楽しみの一つです。「妻が好きなトルコギキョウを内緒で育て、結婚式で贈り喜んでくれた。花農家だからこそできること」と、笑顔を見せます。

青壮年部支部長を務め、地域活動にも尽力する渡邊さん。仲間や先輩に何度も助けられたと振り返ります。

「今後は自身の経営スタイルを確立するのが目標。父のように地域から慕われ、やりたいことに挑戦し続ける豪快な経営者を目指したい」と力強く語りました。



富士市内の生産者が年間約40万本をJAを通じて出荷しています。ハウス栽培で時期をずらしながらさまざまな品種を生産。徹底した品質管理で花卉品評会で入賞するなど高い評価を受けています。

営農アドバイザーから



伝法営農経済センター
たかぎ てつや
高木 哲也

渡邊さんは若手生産者で就農から5年以上の経験を重ね、生産技術の向上に取り組んでいます。これまで培ってきた経験と新しい技術にも挑戦する姿勢が強みです。

JAでは助成事業「めぐりサポート事業」などの支援体制で生産者に寄り添い、技術面・経営面の両方から支えています。